

短 報

## 岡山県下にカワネジガイ *Camptoceras hirasei* Walker を確認

岡山県自然保護センター 森 生枝

### A FINDING OF *Camptoceras hirasei* Walker IN OKAYAMA PREFECTURE

Ikue MORI, Okayama Prefectural Nature Conservation Center

#### Synopsis

The endemic freshwater pulmonate, *Camptoceras hirasei* Walker, was collected in a freshwater pond at Saeki-cho, Okayama prefecture on May 8, 1994. This is currently the westernmost point of Japan where the present species found.

キーワード：カワネジガイ，岡山県，西限。

岡山県佐伯町田賀の田尻大池に、近年県下に確認のなかったカワネジガイ *Camptoceras hirasei* Walker を確認したので報告する。

発見は、1994年5月8日、岡山県自然保護センター主催の研修会における野外研修時で、川崎医科大学の益田芳樹氏が同センター内の田尻大池北岸の導水溝の池岸に見つけた(図1)。

採集個体は1生貝で、殻高8.5mm、殻幅2.2mmである(写真1)。生息地点は当センター造成時(1991年)に池岸の崩落を防ぐため、池岸の水中部に積重、設置された浮石の下面であった(写真2)。径約23cm大の石で、水深68cmの導水溝の岸部にあり、貝の付着点は水深25cmの水面下で、同時に淡水海綿のヨワカイメン、軟体動物のヒメタニシの付着生息がみられた。なお、生息地点の周辺には、ミクリ、ガマ、カワヤナギ等の生育がみられた。

本種は、インドには同属のものがいるが、日本固有種で、国内では中部日本を中心に淡水域沿岸部のヨシ、マコモの茎上に生息が知られる。しかし、分布地点は散在し生物地理学上注目される種であり、また、1地点での個体数の消長が大きいこともあって絶滅危惧種にあげられている小型の淡水産巻貝である(波部, 1991; 1993)。

本種はこれまでに関東・北陸から近畿の本州と徳島県から分布が報告されている(Mori, 1938; 高橋, 1980; 関根, 1990; 湊, 1993; 増田, 1994)が中国地方からの報告はない。

また、今回生息が確認された田尻大池では、約40年前の1953年に本種の確認の記録(花田親兵衛, 1994年私信)を見るが、当センター造成に先行しての1988年4月から1989年3月にかけて実施された田尻大池周辺調査(佐藤ほか, 1990)での確認はなく、近隣地はもとより岡山県下での近年の確認はなかった。

当該田尻大池は、東に堤をもち、その面積は約5.5ha、最大水深は約3mで、西は土盛り堤で上部の上池に接している。池水は6月から9月にかけて水田灌漑用に利用され、年間では約70cmの水位変動がある。また田尻大池は、「備陽国誌」(和田ほか, 1921)にその名を記録され、少なくとも江戸時代中期にはすでに池として存在した。その後、1990年の池岸の一部改修を受けるまでは、自然の雨水を受けての閉鎖水域環境としての存在であったと思われる。

1990年の改修は当センター施設の一部として、池水を冬期に抜水しての護岸の一部改修であり、池水の灌水と

ともに岸への水生植物の移植や池への魚等の放流が実施された。放流魚のうちの県外産のドジョウの他は放流のギンブナ、モロコ類、カワニナ類も移植のミクリ、クサヨシ、ホテイアオイ等もすべて県内産であるものの、これらの移植動植物に混じての侵入は否定しえない。また、造成時に持ち込まれた搬入土砂への付着侵入の可能性も否定できない。

人為が加わった現在、本種の当地での生息が、混じての侵入か天然分布かは不明のままとなるが、中国地方での生息は珍しいものであり、今後の第2の個体の発見、近隣県下での本種の発見確認に注目したい。

本稿をまとめるにあたり、滋賀県琵琶湖研究所の西野麻知子博士には有益なご助言をいただいた。また、川崎医科大学の佐藤國康先生には校閲でお世話になった。ここに記して深く感謝する。

引用文献

波部忠重. 1991. 「日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック(無脊椎動物編)」(環境庁自然保護局野生生物課編). 135pp. 日本野生生物研究センター.

波部忠重. 1993. 「滅びゆく日本の動物50種」(上野俊一編著), 145-147. 築地書館.

増田 修. 1994. 兵庫県下のカワネジガイの記録と飼育下での繁殖. 阪神貝類談話会機関誌かいなかま. 28(3) : 9-10+Plate.

湊 宏. 1993. 文献にみるカワネジガイの記録. 南紀生物. 35(2) : 154-156.

Mori. S. 1938. Classification of the Japanese Planorbidae. Memories of the College of Science, Kyoto Imperial University Series B. 14(2) : 279-301.

佐藤國康・益田芳樹・泰山浩司・大野倫子・井上雅恵. 1990. 岡山県佐伯町田尻大池周辺の動物. 岡山県佐伯町田尻大池周辺の自然. 26-65. 岡山県.

関根和伯. 1990. カワネジガイ *Camptoceras hirasei*

Walker(基眼目 ヒラマキガイ科). 「群馬県の貴重な自然—動物編一」, 266-267. 群馬県林務部.

高橋茂. 1980. 東毛の淡水貝. ちりぼたん. 11(2). 34-36+表紙3面写真.

和田正尹・市浦直方・杉浦長式・左分利知季・熊澤正業・和田正邵. 1921. 備陽国誌. 「吉備群書集成第壹巻」. 165pp. 吉備群書集成刊行會.



図1. 岡山県自然保護センター (34° 50' 55" N : 134° 3' 20" E)内, 田尻大池の位置図.

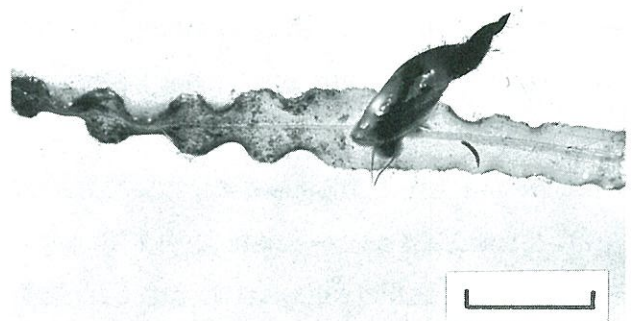


写真1. 岡山県で採集されたカワネジガイ *Camptoceras hirasei* Walker (スケールは5 mm).



写真2. 採集場所.